

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	池田市立児童発達支援センターやまばと学園		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日 ～ 令和7年11月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日 ～ 令和7年11月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種連携チームによる総合的な支援	・多職種参加のケース会議や打ち合わせを定期的実施し、自分の専門分野に添った意見を出し合い、まとめる。 ・支援に迷いが出た場合は、即興で、チームで情報を共有し、検討する機会を持つ。 ・中核機能強化の協定を結んでいる事業所で、定期的な研修を受けている。	・各職種の専門性の向上を目指し、積極的な研修の参加や書籍からの学びを増やす。 ・自己の職種からの見立てや対応等を分かりやすく表現できるようにするため、日頃から意見の交流を大事にしている。
2	個別のアセスメントをもとに、子どもの特性に合わせた支援の提供	・各職種でフォーマル、インフォーマルなアセスメントを実施し、結果を共有する。	・ケース会議や日々のやりとりを通して、個別の発達段階と特性に注目できるように促す。
3	親子関係や保護者の学びに対する支援	・親子通園を通して、実際の子どもの姿を見ながら、具体的な支援や相談を実施する。 ・多職種による定期的な保護者勉強会とペアレントプログラム等の学びの場を提供する。	・子どもの行動を適切に観察し、行動の意味や根拠について説明できる力量を身につける。 ・親子の愛着関係が構築できるようなプログラムを提供する。 ・保護者のニーズを考慮しながら、勉強会を計画、立案する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	設備、建物、周囲の環境の老朽化	・築年数が50年を超えており、必要箇所の修繕、危険物の撤去等を実施しているが、老朽化は否めない状態である。	・修繕必要な部分は可能な範囲で対応する。 ・移転を視野に入れて、新しい施設の設備等を他施設の視察をしながら検討する。 ・利用者の安全、安心を優先的に考慮し、不具合に対処する。
2	人材育成	・療育経験の少ない職員が多く、指導できる立場の人材が限定される。 ・市として、継続した専門職の雇用の意識がこれまで薄かった。	・経験を積んだ職員から助言が得られるような職員体制を組む。 ・定期的なケース会議を実施し、ケースの見方を学ぶ機会を多く設ける。 ・オンラインを含めた研修、実地研修等の利用を推進する。 ・療育に関心がある各専門職の人材確保を目指し、長期間の雇用に結びつける。
3	情報発信の技術やスキルの不足	・Wi-Fi環境の不足による情報取得、発信の制限	・現環境でできる情報発信の仕方を探り、取り入れる。 ・効果的な情報発信の仕方やスキルを身につける。